



2004年度 通信市場予測

閉塞感が漂っていた通信市場に、再び成長の兆しが見え始めた。その牽引力となるIP・ブロードバンド、そしてモバイルをいかにビジネスに取り込めるかが最大の課題となっている。2004年度通信機器・サービス市場の展望とビジネスの変化を探った。(編集部)

ネットワーク IP電話サービス

ブロードバンドへの標準装備で 倍増1000万加入が見えた

ブロードバンド回線上のサービスに位置付けられるIP電話サービスは、2002年9月からの「050」番号付与を機に事業者が続々と参入した。

業界を先導するソフトバンクBB「BBフォン」は、同社の発表によると2004年1月末で358万4000加入。ADSLサービス「Yahoo!BB」の契約数381万7000回線の93.8%を占めるのは“標準機能”として提供されていることによる。前月からの伸びは12万7000、ここ半年の伸びを見ると月平均15万2000。ただ、1月末の数字は前月から12万7000増にとどまり、若干ペースダウンしている。それでも残る2カ月で20万増は堅いと見れば、2003年度末で380万加入に達する。

これに他事業者の数字がどのくらい乗ってくるか。各社とも実績を公表していないため見極めは難しいが、ある業界関係者は「感覚的に見て100万前後ではないか」という。

この数字の妥当性を考えてみよ

う。まず、市場でIP電話サービス開始が相次いだのが昨年春。大半はADSLをベースとしたものだった。2003年3月末のADSL加入者数は約702万。同月のYahoo!BB加入者が236万3000(BBフォンは197万4000)と発表されているため、他事業者分は465万7000回線。端的に、この部分はIP電話サービス未加入しよう。次に公表値として昨年12月末のADSL加入者数を見ると、総計で約1027万、うちYahoo!BBが369万4000。他事業者分は657万6000で、3月から191万9000増となる。ここに残り3カ月分を足して270万程度の増加と見ると、IP電話100万加入は構成比37%となる。

事業者各社がBBフォンに追随すべく新規加入の無料キャンペーンを繰り広げ、さらには同社を做って大手事業者がブロードバンドサービスへの標準装備を進めたことを考えると、この比率を多少上方修正してもよいだろう。加えて、FTTH、CATV

IP電話サービス

2003年度の着地点は500万加入。独走する「BBフォン」がシェア76%を占める

他事業者の追随策とサービスの利便性向上で、2004年度以降は新規ブロードバンド加入の7割以上がIP電話を利用

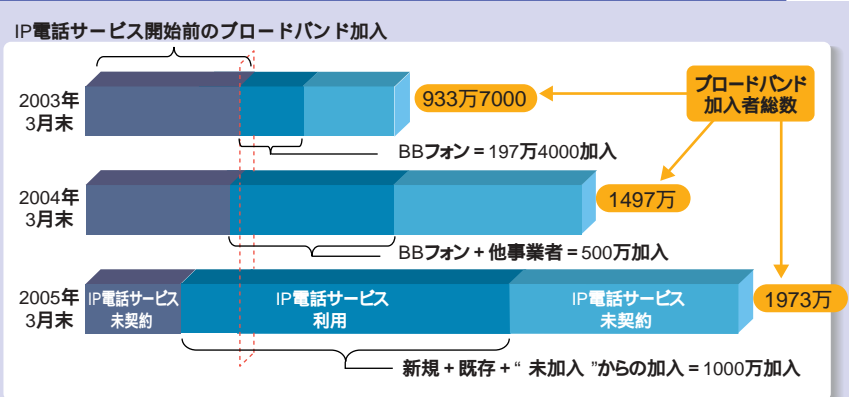
市場全体で2004年度内に1000万加入突破の可能性も十分

インターネットでのサービス提供分を加えると、2003年度末でIP電話加入者は総計500万の線が見えてくる。

では2004年度の伸びはどうか。「IP電話サービスは、ブロードバンド市場で競合相手に負けないためのメニューとして、もはや必須と捉えられている」という認識が業界内にはある。また、一般電話や携帯電話との発着信が可能になり、事業者間の相互通話も徐々に進んできたことで、ユーザーにとっての利便性も向上してきた。

こうしたことから、今後のブロードバンド新規加入分については、BBフォン並みとはいかないまでも相当な比率でIP電話への加入が伴うと思われる。本誌推定のブロードバンド加入者数は2003年度1497万、2004年度1973万。476万増のうち7割と見れば約330万が新規のIP電話加入者となる。さらに、前述した“既存の未加入分”についてもIP電話利用への動きが活発化してくると考えれば、IP電話サービス累計1000万加入突破も十分に可能性がある。

図 ブロードバンド加入者におけるIP電話サービス利用予測



特集 1 2004年度 通信市場予測